

平成25年度 第4回 理事会 議事録

日時 平成25年12月14日(土) 14時30分～16時15分
場所 北海きたえーる大研修室
出席者 近藤龍夫、嶋倉 昭、高橋賢治、紺屋正雄、渋谷研一
大江憲一、黒田謙二、須田正毅、田中昌幸、杉木 恵
櫻庭功一、春間好実、浅野泰弘(代理)、山田伸二
西谷清之、高橋克徳、関原榮司、三浦義廣、山内孝夫
中川裕行、宮原 勉、奈良孝伸、武田和夫、鈴木佳次
大橋公徳、島崎真知子、川村俊明、高坂 猛

1 開 会

理事総数31名中、25名の出席があり本理事会は成立することが報告される。

2 会長あいさつ

ワールドグランプリフィナル大会は1週間の大会期間で地元札幌協会、関係各連盟のご尽力で盛大に開催され、決算も黒字になり心からお礼申し上げます。今日は理事会後にJOC 壮行会も控えておりますが、審議をよろしく願います。

3 議事録署名人の選出について

近藤会長ほか2名は、事務局案のとおり武田理事・鈴木理事に決定する。

4 報告事項

(1) 平成25年度前期事業実施状況について(各委員長等から説明)

- ①総務委員会 財政の有効活用について議論を始めているが、更なる検討が必要であり、今後提起していく。
- ②競技委員会 9人制大会(実業団、クラブカップ、社会人、総合9人、クラブ選手権)の参加チームが少なく大会が不成立となっているため、9人制PR活動を大学秋季リーグで行った内容を報告する。
- ③審判委員会 各種講習会、研修会を開催し、各大会へ審判員を派遣している。
- ④強化委員会 各カテゴリーで合宿等を行っている。国体の選抜方式は継続する。
全日本インカレで東海大札幌校舎がベスト8入りしたが、今後とも上を目指していく。
- ⑤指導普及委員会 ジュニアキャンプの参加数が年々減少しており、その対策が必要。

<質問等>

- 少子化で子どもが減っているが、MRS個人登録は全国的には高いのか。
⇒北海道は高い。なお、全国的には中・高のMRS登録が必須でないこともある。
- 登録数の増加は年度途中でもあるのか。
⇒今後、高校新人大会があり、登録増はあり得る。

(2) 平成25年度一般会計執行状況について(田中総務副委員長から説明)

- ・今年度は13カ月予算で、特に支出の多い3月が2回あるため予算規模も大きくなっている。登録チームの減少による収入減、支出は効率化を進めている。

<質問等>

○参加料が少ないようだが。

⇒高校新人大会で70チームの参加を見込んでおり105万円入る予定である。

(3) FIVBワールドグランプリ2013ファイナル札幌大会結果報告（渋谷理事長から説明）

- ・8月28日～9月1日、北海きたえーるで開催され日本は健闘するも4位の結果。入場者も好調に推移し、5,770,170円が道協会に配賦されたため、500万円は特別事業等基金に積立し、残りの77万円は一般会計に繰入れたい。

<質問等>

○ママ連はチケット販売に協力した。過去には還付もされたが今回はどうか。

⇒ご協力に感謝するが、還付について今回は考えていない。

○先行販売でSS席が取れなかったのを検討してほしい。

⇒ご指摘の通りで、今回は平日開催のためSS席を減らした経緯もある。今後はスムーズな形で行いたい。

5 協議事項

(1) 9人制の大会について（黒田副理事長から説明）

- ・実業団選手権大会とクラブカップ選手権大会を実業団リーグと同時に開催する。また社会人優勝大会を富樫杯優勝大会と同時に開催し、実連主管大会とする。
- ・参加チームには参加料の負担軽減、大会参加で試合数増加のメリッがあるほか、大会運営費の節減による道協会の交付金縮減のメリットがある。
- ・日本スポーツマスターズは大会申込み締め切りの日程から当面現状維持する。
- ・9人制総合選手権は現状のままとする。

<意見等>

○大会を兼ねても全道大会への参加チームが増える要素はない。いろいろな意見に耳を傾けていく必要がある。大会を減らすことはやめるべきである。

○試合数が増えるから参加するかをチームに聞いているのか。

⇒関係チームに出来る範囲で聞いているが、道央クラブ連盟のチーム全部に聞いてはいない。

○画期的な進展がないまでも、まずは新たな取り組みとしてやっていくべきでは。

○開催地を固定化するというよりは地域性も考慮して、例えば札幌協会の9人制大会と一緒にしてはどうか。

⇒札幌大会に今年は参加チームが無い。

※提案のとおりこのような開催方法で行うことが承認される。

(2) クラブ選手権大会について（黒田副理事長から説明）

- ・参加チーム数減少が続くため、今後生涯スポーツとしてのバレーボール普及に着目しバレーボール人口を増やす受け皿の発掘を進める大会を目指して、クラブ選手権は6・9とも発展的に中止とし、3月理事会に違う形の大会を提案したい。

<意見等>

○代案もないのに大会だけ中止することを提案するのはおかしい。前回の常任理事会議事録に中止すると記載されているが訂正すべき。

○クラブカップの地区予選を廃止して大会参加が減った。道協会は地区でクラブの大

会を開催してもらうなどの代替案を示すべき。

○25 協会で大会を行うにしても札幌以外は無理ではないか。

○帯広地区には社会人チームが 30 程度あるが、MRS への登録は 2 チームのみである。

○MRS にこだわらないオープン参加の大会にするなども考えてみてはどうか。

⇒チームの減少は MRS 導入だけとは限らず、北海道の景気長期低迷など社会人チームを取り巻く環境は厳しい状況にある。MRS 登録料も 10 人以下のチームであれば少なくて済んでいる。バレーボール離れの実態を踏まえ、3 月までに成案とすることをご理解いただきたい。

※次回理事会に再提案することです承する。

(3) 平成 26 年度全国大会開催地について (杉木競技委員長から説明)

・ 9 人制の大会開催方式変更に伴い日程、場所、主管などを次のとおり変更する。

大会名	開催地	主管	平成 26 年度大会日程案
1 地区対抗中学生選抜	芦別・富良野	指導普及委員会	3 月 26 日 (水) ~ 28 日 (金)
4 中学生選抜	芦別・富良野	指導普及委員会	5 月 3 日 (土) ~ 5 日 (月)
6・7 実リーグ・実 9・カップ 9	深川	実連	
15 社会人	妹背牛	実連	8 月 24 日 (日)
22 天皇杯・皇后杯	道央地区		
27 コーラ杯	深川	クラブ道北	9 月 6 日 (土) ~ 7 日 (日)
28 天皇杯ブロック	千歳	北海道	9 月 27 日 (土)
39 は削除			

6 その他

○2014/15V チャレンジリーグについて (渋谷理事長から)

・ 開催を希望する地区協会があれば 12/25 までに申し出てほしい。

○全日本インカレの結果について (黒田副理事長から)

・ 東海大札幌校舎が初めてのベスト 8 となった。

○北海道ヤングクラブ連盟の現状報告について (紺屋副会長から)

・ 登録チームは 11 チームの現状。

・ 交流大会は 8 月 18 日 (日) 東海大学札幌校舎で行い、5 チーム 46 名参加した。

・ 北海道 U-14 クラブチャンピオンシップは 10 月 5 日 (土) ~ 6 日 (日) 東海大学第四高校で開催し、12 チーム 128 名 (クラブ 62 名) 参加した。

・ バレーボール教室は 4 月 21 日、5 月 26 日、6 月 23 日、7 月 7 日、7 月 28 日、東海大学第四高校で行った。

・ 次年度大会開催予定は次のとおり

交流大会 10 月 4 日 (土) ~ 5 日 (日) 札幌啓北商業高校体育館

北海道 U-14 クラブチャンピオンシップ 8 月 9 日 (土) ~ 10 日 (日) 札幌南高校体育館

○全国クラブカップ 6 人制男子大会について (西谷理事から)

・ 8 月に苫小牧市で開催し無事終了した。

○V プレミアリーグ男子芦別大会について (三浦理事から)

・ 来年 3 月 22 日 (土) ~ 23 日 (日) に開催するが多くの観戦者をお待ちしている。

○ママ連 40 周年記念式典について (島崎理事から)

・11月17日（日）に行い、無事式典等が終了した。

※会長から、生涯スポーツを実践し、手づくりの運営に敬意を表するとの談。

○役員名簿について（渋谷理事長から）

・地区協会、加盟団体での名簿の取り扱いについては、注意するよう願う。


○ヴィンテージ8帯広大会について（高橋理事から）

・大会は成功裏に終了したが、生涯スポーツ推進の観点から道大会開催の検討を願う。

7 閉 会

【次回：3月15日（土）15時00分・北海きたえーる】

議事録署名人 会長 近藤 龍夫 

議事録署名人 釧路 協会 武田 和夫 

議事録署名人 実連 協会 鈴木 佳次 